

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平6-11724

(43)公開日 平成6年(1994)2月15日

(51)Int.CI. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 F 13/56				
A 4 1 B 9/12	E	2119-3B		
A 6 1 F 5/44	H	7108-4C		
		7603-4C	A 6 1 F 13/ 18	3 5 0

審査請求 未請求 請求項の数3(全 4 頁)

(21)出願番号 実願平4-42015

(22)出願日 平成4年(1992)6月18日

(71)出願人 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72)考案者 桑原 真弓

栃木県宇都宮市石井町2986-21

(72)考案者 滝田 浩美

栃木県芳賀郡益子町七井2343-10

(72)考案者 中西 稔

栃木県河内郡南河内町薬師寺3298-75 グ

リーントウン208街区1-2

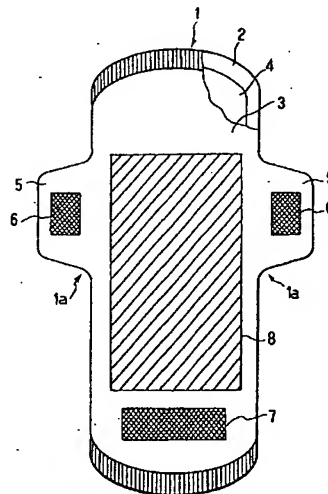
(74)代理人 弁理士 羽島 修

(54)【考案の名称】 吸収性物品

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 下着に対する装着が容易で装着ミスがなく、ヨレることなく、着用状態を終始安定した状態に保持し、漏れを有効に防止することができる剥離紙不要の吸収性物品を提供。

【構成】 液透過性の表面材2、液不透過性の防漏材3、及びこれら両部材間に介在する液保持性の吸収体4を有し、股間に装着する吸収性物品において、股間前方に位置する左右両側縁部に、その幅方向外方にそれぞれ延びる一対の固定片5を設け、固定片の各裏面に第一粘着部6を設け、股間後方に位置する防漏材面の中央部に第二粘着部7を設け、上記一対の固定片を、防漏材に折り曲げて上記第一粘着部と合わせる上記防漏材面、及び上記吸収性物品を幅方向に四つ折して上記第二粘着部と合わせる上記防漏材面に、上記第一粘着部及び第二粘着部に剥離部8を有している。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 液透過性の表面材、液不透過性の防漏材、及びこれら両部材間に介在する液保持性の吸収体を有し、実質的に縦長に形成され、股間に装着する吸収性物品において、

上記吸収性物品における股間前方に位置する左右両側縁部に、その幅方向外方にそれぞれ延びる一対の固定片を設け、

上記一対の固定片の各裏面に第一粘着部を設け、また該吸収性物品における股間後方に位置する防漏材面の中央部に第二粘着部を設け、

上記一対の固定片を防漏材側に折り曲げて上記第一粘着部と合わる上記防漏材面、及び上記吸収性物品を幅方向に四つ折して上記第二粘着部と合わる上記防漏材面に、上記第一粘着部及び第二粘着部に対して接離自在な剥離面を有していることを特徴とする吸収性物品。

【請求項2】 上記一対の固定片を防漏材側に折り曲げて上記第一粘着部に接離自在に合わせた上記吸収性物品をその中央部で上記表面材側に折り曲げた後に、上記第二粘着部と上記剥離面とを接離自在に合わせて四つ折りされた請求項1記載の吸収性物品。

【請求項3】 上記一対の固定片を防漏材側に折り曲げて上記第一粘着部に接離自在に合わせた上記吸収性物品をその長手方向両端部が互いに付合うように表面材側に折り曲げられた後に、上記第二粘着部と上記剥離面とを接離自在に合わせて四つ折りされた請求項1記載の吸収性物品。

10

20

*【図面の簡単な説明】

【図1】 第1実施例の生理用ナプキンを完全に展開し、一部を切欠いた平面図である。

【図2】 図1のウイング（固定片）が折り曲げられた状態の平面図である。

【図3】 図1の二つ折り状態の生理用ナプキンの斜視図である。

【図4】 図1の生理用ナプキンを四つ折りにした携帯状態の斜視図である。

【図5】 第2の実施例の生理用ナプキンを完全に展開した平面図である。

【図6】 図5のウイング（固定片）が折り曲げられた状態の平面図である。

【図7】 図5の二つ折り状態の生理用ナプキンの斜視図である。

【図8】 図5の生理用ナプキンを四つ折りにした携帯状態の斜視図である。

【符号の説明】

1及び10 生理用ナプキン（吸収性物品）

2 表面シート（表面材）

3 防漏シート（防漏材）

4 吸収体

5 固定片

6 第一粘着部

7 第二粘着部

8 剥離面

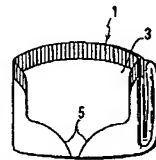
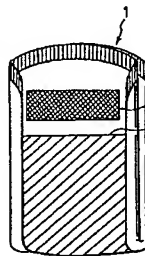
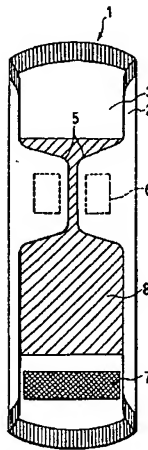
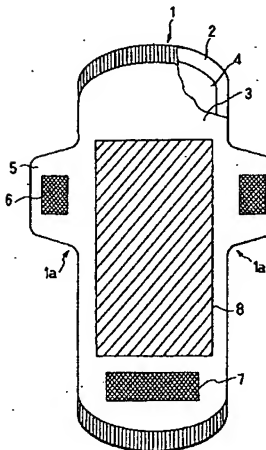
*

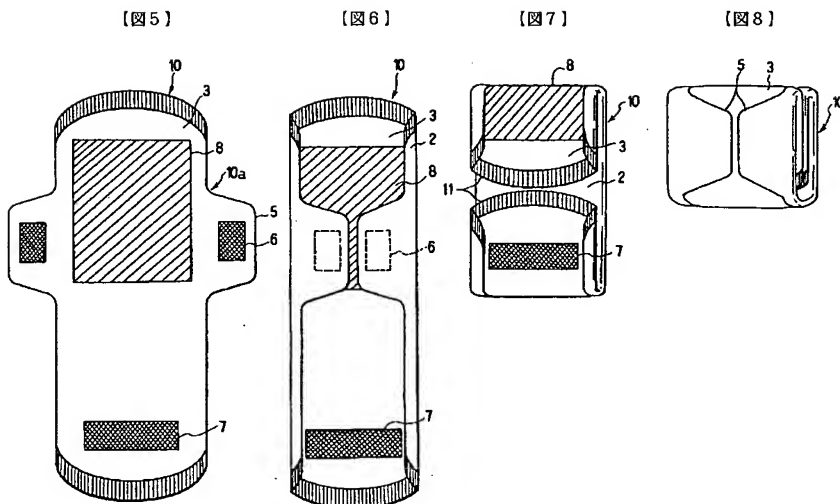
【図1】

【図2】

【図3】

【図4】





【手続補正書】

【提出日】平成5年9月20日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正内容】

【書類名】明細書

【考案の名称】吸収性物品

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 液透過性の表面材、液不透過性の防漏材、及びこれら両部材間に介在する液保持性の吸収体を有し、実質的に縦長に形成され、股間に装着する吸収性物品において、上記吸収性物品における股間前方に位置する左右両側縁部に、その幅方向外方にそれぞれ延びる一対の固定片を設け、

上記一対の固定片の各裏面に第一粘着部を設け、また上記吸収性物品における股間後方に位置する防漏材面の中央部に第二粘着部を設け、

上記一対の固定片を、上記左右両側縁部において上記防漏材側にそれぞれ折り曲げた場合、該固定片が上記第一粘着部と重ね合わされる上記防漏材面に、上記第一粘着部に対して接離自在な剥離部を設け、

上記吸収性物品を長手方向に四つ折した場合、上記第二粘着部と重ね合わされる上記防漏材面に、第二粘着部に

対して接離自在な剥離部を設けたことを特徴とする吸収性物品。

【請求項2】 上記第二粘着部と重ね合わされる上記防漏材面が、上記第一粘着部と重ね合わされる上記防漏材面と、上記第二粘着部との間に位置する上記防漏材面であることを特徴とする請求項1記載の吸収性物品。

【請求項3】 上記第二粘着部と重ね合わされる上記防漏材面が、上記第一粘着部と重ね合わされる上記防漏材面よりも前方に位置している上記防漏材面であることを特徴とする請求項1記載の吸収性物品。

【請求項4】 上記一対の固定片を、上記左右両側縁部において上記防漏材側に折り曲げて上記第一粘着部に接離自在に重ね合わせた上記吸収性物品を、その長手方向の中央部で上記表面材側に二層に折り曲げた後に、二層に折り曲げられた吸収性物品を更に折り曲げて上記第二粘着部と上記剥離部とを接離自在に重ね合わせることに、全体が四層形態に折り曲げられていることを特徴とする請求項1記載の吸収性物品。

【請求項5】 上記一対の固定片を、上記左右両側縁部において上記防漏材側に折り曲げて上記第一粘着部に接離自在に重ね合わせた上記吸収性物品を、その長手方向の両端部が、該長手方向の中央部で互いに突き合うように表面材側に二層に折り曲げた後に、二層に折り曲げられた吸収性物品を上記両端部の突き合せ部で更に折り曲げて上記第二粘着部と上記剥離部とを接離自在に重ね合

わせることにより、全体が四層形態に折り曲げられてい
ることを特徴とする請求項1記載の吸収性物品。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1実施例の生理用ナプキンを完全に展開し、
一部を切欠いた平面図である。

【図2】図1のウイング（固定片）が折り曲げられた状
態の平面図である。

【図3】図1の生理用ナプキンを二層に折り曲げた状態
の斜視図である。

【図4】図1の生理用ナプキンを四層に折り曲げた携帯
状態の斜視図である。

【図5】第2の実施例の生理用ナプキンを完全に展開し
た平面図である。

【図6】図5のウイング（固定片）が折り曲げられた状

態の平面図である。

【図7】図5の生理用ナプキンを二層に折り曲げた状態
の斜視図である。

【図8】図5の生理用ナプキンを四層に折り曲げた携帯
状態の斜視図である。

【符号の説明】

1及び10 生理用ナプキン（吸収性物品）

2 表面シート（表面材）

3 防漏シート（防漏材）

4 吸収体

5 固定片

6 第一粘着部

7 第二粘着部

8 剥離面

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、使用者が下着（以下、「ショーツ」で代表する）と共に狭い股間において着用する生理用ナプキン、失禁者用パット、おりもの処理用パット等の吸収性物品に関し、更に詳しくは、高い防漏性を有する吸収性物品に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来の生理用ナプキン等の吸収性物品は、基本的に、液透過性の表面材、液不透過性の防漏材、及びこれら両部材間に介在する液保持性の吸収体を有して構成されている。そして、近年、従来の綿状パルプ、あるいは吸収紙の他、吸収体素材として吸収性ポリマー等の新素材を開発、導入することによって吸収性物品としての吸収性能の向上が図られてきた。また、従来の繊維集合体である不織布の他、疎水性シートに種々の手段により細孔を設けて液透過性を付与した液透過性シートを表面材として用いることによって吸収性物品としての吸収性能の向上が図られてきた。

【0003】

しかしながら、新しい素材を導入し、各部材個々の性能が優れた吸収性物品であっても、実際の使用時には依然として横漏れを生じることが多い。例えば、生理用ナプキンの場合には、その端部から血液が何等かの原因で横漏れしてショーツに血液が達するなど生理用ナプキンとして不都合な現象を生じ、吸収性物品本来の性能を十分に発揮しているとは言い難いものであった。このように各構成部材本来の性能と無関係に発生する生理用ナプキンにおける漏れの主たる原因としては、次の3つが考えられる。

(1) 使用者が生理用ナプキンをショーツに装着する際、装着位置がショーツのクロッチ部において左右のいずれかに偏倚し、クロッチ部に初めから生理用ナプキンによって被覆されていない部分が存在すること

(2) 使用者が略正規の位置、つまりショーツのクロッチ部に対して左右に偏倚

させることなく略中央に生理用ナブキンを固定したとしても、使用者の運動等によって生理用ナブキンの長手方向の両端部が中央部に折り重なって丸まった状態に変形するヨレを生じ、装着直後は被覆されていたクロッチ部の端部がヨレによって露出すること

(3) 使用者が激しい運動を行った場合に、生理用ナブキンが一般的に具備する粘着剤等の固定手段のみでは生理用ナブキンをショーツのクロッチ部に十分に固定することができず、生理用ナブキンが所定の位置からズレてショーツのクロッチ部が露出すること

【0004】

これら(1)～(3)に起因する漏れは、使用者が着用するショーツによっても大きな影響を受ける。例えば、サイズ、特に、クロッチ部の幅がナブキンの幅に比べて広い場合、あるいは身体とのフィット性が悪くルーズな状態になった場合には、漏れが比較的発生し易くなる。

そこで、これらの問題を解決するために、吸収性物品の長手方向両側の中央部から幅方向外方へ一対の可撓性のフラップ（固定片）をそれぞれ延出させた吸収性物品が多数提案されている（特開昭60-75058号公報、特開平1-111002号公報、特開平2-13455号公報等）。これらの吸収性物品の場合には、使用時にそれぞれのフラップでショーツのクロッチ部を挟んで固定することによりショーツにおける吸収性物品を安定化させてその防漏性を改善したものである。

例えば、特開昭60-75058号公報に記載の衛生ナブキンは、吸収性物品の縦方向両側の中央位置において、吸収体の側部から液透過性の表面材と液不透過性の防漏材から成る可撓性のフラップを延出させ、使用時にショーツの側端部からフラップを引出し、フラップの裏面に設けられた固定接合手段によりショーツ外側に設置固定することにより衛生用ナブキンを安定化させてその防漏性を改善したものである。

【0005】

【考案が解決しようとする課題】

しかし、これらのフラップ付衛生用ナブキンは、通常フラップが両側部の長手

方向中央に位置しており、フラップ及びフラップ裏面の固定接合手段には剥離紙が設けられているため、以下の問題が生じている。

①衛生用ナプキンをショーツのクロッチ部に装着する際、剥離紙を剥がす操作が面倒で、且つそのような手間に注意を捕られ、最適位置に装着することが出来ず、時として使用開始時からナプキンが不規則な形にヨレた状態で装着されて漏れを引き起こす。

②従来のフラップは股間中央に位置し、ショーツのクロッチ部の最も幅狭の部分に装着されることになるため、吸収性物品の吸収体は装着者の前部分に偏り、後ろ漏れ防止効果等が低下する。

③固定接合手段及び剥離紙は、ナプキンの裏面の略全域に設けられ、期待される効果の割りにはコストがかかる。

④包装個装形態としては、フラップの位置関係等から従来三つ折にしてあるためそのコンパクト性に欠ける。

【0006】

従って、本考案の目的は、ショーツ等の下着の形状、身体へのフィット性の如何に拘わらず、下着に対する装着が容易で装着ミスがなく、運動等を行っても吸収性物品が殆どヨレることなく、使用開始時の着用状態を終始安定した状態に保持することができ、漏れ（特に、後ろ漏れ、横漏れ）を有効に防止することができると共に剥離紙が不要で取扱い容易な吸収性物品を提供することにある。

本考案の第二の目的は、包装形態、即ち個装形態がコンパクトで持ち運びに便利な吸収性物品を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】

本考案者らは、特にショーツ等の下着に対する装着が容易で装着ミスがなく、しかも横漏れ、後ろ漏れを有効に防止することができる吸収性物品について種々検討した結果、下着に対する特定の固定手段を吸収性物品の適宜の位置に設けることによって上記目的を達成し得ることを知見した。

即ち、本考案は、上記知見に基づいてなされたもので、液透過性の表面材、液不透過性の防漏材、及びこれら両部材間に介在する液保持性の吸収体を有し、実

質的に縦長に形成され、股間に装着する吸収性物品において、上記吸収性物品における股間前方に位置する左右両側縁部に、その幅方向外方にそれぞれ延びる一对の固定片を設け、上記一对の固定片の各裏面に第一粘着部を設け、また該吸収性物品における股間後方に位置する防漏材面の中央部に第二粘着部を設け、上記一对の固定片を防漏材側に折り曲げて上記第一粘着部と合わさる上記防漏材面、及び上記吸収性物品を幅方向に四つ折して上記第二粘着部と合わさる上記防漏材面に、上記第一粘着部及び第二粘着部に対して接離自在な剥離面を有していることを特徴とする吸収性物品を提供するものである。

【作用】

本考案の吸収性物品によれば、四つ折り状態から表面材が広がるように展開し、固定片を吸収性物品の幅方向へ拡げた状態にして下着のクロッチ部の内面に当て、剥離紙などに邪魔されることなく第二粘着部を下着のクロッチ部後方に固定し、次に、拡げてあった固定片を元の状態に折り曲げてその第一粘着部をクロッチ部の外面に粘着させて固定片でクロッチ部前方の両側縁部を包み込み、吸収性物品を下着に固定する。従って、この状態で下着を着用すれば、液透過性が体液の排出部に位置し、着用後に使用者が運動等を行っても固定片が捲れることなく、常に固定片がクロッチ部に第一粘着部によって粘着した状態でクロッチ部を包み込み、吸収体が前方に偏ったりすることなく、また第二粘着部によって後方のズレもなく、吸収性物品を初期の状態で終始安定的に保持することができる。また、携帯時においては、四つ折りにされコンパクトな形態に維持されている。

【0008】

【実施例】

以下、図1～図8に示す実施例に基づいて本考案を説明する。尚、各図中、図1～図4は本考案の吸収性物品の第1の実施例である生理用ナプキンを示す図であり、図1は、生理用ナプキンを完全に展開した平面図、図2は、ウイング（固定片）が折り曲げられた状態の平面図、図3は二つ折り状態の生理用ナプキンの斜視図、及図4は四つ折りにした携帯状態の生理用ナプキンの斜視図である。

図5～図8は本考案の吸収性物品の第2の実施例である生理用ナプキンを示す図であり、図5は、生理用ナプキンを完全に展開し、一部を切欠いた平面図、図

6は、ウイング（固定片）が折り曲げられた状態の平面図、図7は二つ折り状態の生理用ナプキンの斜視図、及び図8は四つ折りにした携帯状態の生理用ナプキンの斜視図である。

【0009】

本考案に係る吸収性物品は、図1～図8に示す如く、液透過性の表面材（表面シート）2、液不透過性の防漏材（防漏シート）3、及びこれら両部材間に介する液保持性の吸収体4を有し、実質的に縦長に形成され、股間に装着するが、この点は従来公知の吸収性物品の構成と同様である。

しかして、本考案の吸収性物品は、上記吸収性物品1における股間前方に位置する左右両側縁部1aに、その幅方向の各外方に延びる一对の固定片5、5を設け、上記一对の固定片5、5の各裏面に第一粘着部6、6を設け、また該吸収性物品1における股間後方に位置する防漏材面3の中央部に第二粘着部7を設け、上記一对の固定片5、5を防漏材3側に折り曲げて上記第一粘着部5、5と合わさる上記防漏材3面、及び上記吸収性物品1を幅方向に四つ折して上記第二粘着部7と合わさる上記防漏材3面に、上記第一粘着部及び第二粘着部に対して接離自在な剥離面8を有している。

【0010】

本考案に係る第1の実施例の生理用ナプキン1を更に説明すると、図1～図4に示す如く、上記一对の固定片5を防漏材3側に折り曲げて上記第一粘着部6に接離自在に合わせた生理用ナプキン1をその中央部で上記表面材2側に折り曲げた後に、上記第二粘着部7と上記剥離面8とを接離自在に合わせて四つ折りされたものである。

具体的に、上記表面シート2及び防漏シート3の一部は生理用ナプキン1の長手方向前方の左右両側縁部において幅方向外方へ略台形状を呈するように延在され、該延在部は、一对のウイング状固定片5、5として形成され生理用ナプキン1本体と一体化している。また、該一对の固定片5、5は、それぞれ生理用ナプキン1の長手方向の左右両側縁部において前方に偏倚して位置している。

各固定片5、5の防漏シート3の表面（裏面）には第一粘着部6、6がそれぞれ設けられ、生理用ナプキン1の後部の防漏シート3面には第二粘着部7が設け

られ、更に、生理用ナプキン1の前部及び中央部の防漏シート3面には剥離面8が設けられている。剥離面8は、図2に示す如く、一对の固定片5、5が防漏シート3側に折り曲げ、或いは畳まれたときに、固定片5の第一粘着部6と接合し、且つ図3及び図4に示す如く、生理用ナプキン1の四つ折り時に、上記防漏シート3面の第二粘着部7と接合するように形成されている。

この剥離面8は、第一粘着部6、及び第二粘着部7と接離可能な面に仕上げてあればよく、剥離紙と同様な作用効果を発揮するものであれば特に制限はない。

【0011】

次に、第1の実施例の生理用ナプキン1の使用態様について説明する。

先ず包装するまでを図1から図4に従って説明すると、一对の固定片5、5は、防漏シート3側に折り曲げられ、第一粘着部6が剥離面8に仮接着される（図2）。次に、生理用ナプキン1がその中央で表面シート2を内側にして幅方向に折り曲げられる（図3）。そして、第二粘着部7と剥離面8とが仮接着されるように四つ折りにされ、個包装される。このような四つ折りにおいては、固定片5が生理用ナプキン1の前方に形成されるため折り曲げの際に邪魔にならない。また、防漏シート3面の第二粘着部7及び剥離面8が好適な位置に設けられるため、粘着部6、7には剥離紙が不要である。

【0012】

生理用ナプキン1を使用するに当たっては、第二粘着部7を剥がしながら図4の四つ折り状態から表面シートが広がるように展開し（図2）、一对の固定片5、5を剥がす。剥離紙を取る手間が省かれた状態で、生理用ナプキン1を下着のクロッチ部の内面に当て、第二粘着部7を下着のクロッチ部後方に固定し、次に、広げてあった固定片5、5を元の状態に折り曲げてその第一粘着部5、5をクロッチ部の外面に粘着させる。これにより、固定片5、5でクロッチ部前方の両側縁部が包み込まれ、吸収性物品は下着に確実に固定される。

従って、装着動作が簡便で、装着ミスが少なくなり、下着の着用後は、生理用ナプキン1の液透過性部が体液の排出部に正確に位置し、使用者が運動等を行っても固定片5、5が捲れることなく、吸収体4等が前方に偏ったりすることがない。また、第二粘着部7によって後方のズレもなく、生理用ナプキン1は初期の

状態で終始安定的に保持される。尚、携帯時においては、四つ折りにされコンパクトな形態に維持される。

また、実施例によれば、第一、第二粘着部6、7が互いに接離自在になって、各粘着部6、7間に剥離紙を介在させる必要がなく、従って、高価な剥離紙を節約して製造コストを低減することができ、経済的な生理用ナプキン1を得ることができる。

【0013】

次に本考案に係る第2の実施例を図7に基づいて説明する。第2の実施例に係る生理用ナプキン10は、図1～図4に示す第1の実施例とほぼ同様に構成されており、図1～図4に示す第1の実施例における部材と同様な部材については図5～図8において同一符号を付してその詳しい説明を省略するが、第1の実施例と相違するところは、以下の点である。

第2の実施例は、図5～図8に示す如く、一对の固定片5を防漏材3側に折り曲げて上記第一粘着部6に接離自在に合わせた生理用ナプキン1をその長手方向両端部11が互いに付合うように表面材2側に折り曲げられた後に、上記第二粘着部7と上記剥離面8とを接離自在に合わせて四つ折りされたものである。

また、図5に示す如く、剥離面8は防漏シート3における前方部のみ形成されている。

【0014】

このような構成においても、一对の固定片5、5は、防漏シート3側に折り曲げられ、第一粘着部6が剥離面8に仮接着され、生理用ナプキン10は、その両端部11、11が付合うように、しかも表面シート2を内側にして幅方向に折り曲げられる(図7)。そして、第二粘着部7と防漏シート3の前方の剥離面8とが仮接着されるように四つ折りにされ、個包装される。従って、第1の実施例と同様に、四つ折りにおいては、固定片5が折り曲げる際の邪魔にならず、また、粘着部6、7には剥離紙が不要である。

更に、使用に際しても、第1の実施例と同様に上記効果を奏する。

【0015】

【考案の効果】

本考案の吸収性物品は、ショーツ等の下着の形状、身体へのフィット性の如何に拘わらず、下着に対する装着が容易で装着ミスがなく、運動等を行っても吸収性物品が殆どヨレることなく、使用開始時の着用状態を終始安定した状態に保持することができ、漏れ（特に、後ろ漏れ、横漏れ）を有効に防止することができると共に、剥離紙が不要で取扱い容易なものである。また、吸収性物品は包装形態、即ち個装形態がコンパクトで持ち運びに便利となっている。

【提出日】平成5年9月20日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正内容】

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、使用者が下着（以下、「ショーツ」で代表する）と共に狭い股間において着用する生理用ナプキン、失禁者用パット、おりもの処理用パット等の吸収性物品に関し、更に詳しくは、高い防漏性を有する吸収性物品に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来の生理用ナプキン等の吸収性物品は、基本的に、液透過性の表面材、液不透過性の防漏材、及びこれら両部材間に介在する液保持性の吸収体を有して構成されている。そして、近年、従来の綿状バルブ、あるいは吸収紙の他、吸収体素材として吸収性ポリマー等の新素材を開発、導入することによって吸収性物品としての吸収性能の向上が図られてきた。また、従来の繊維集合体である不織布の他、疎水性シートに種々の手段により細孔を設けて液透過性を付与した液透過性シートを表面材として用いることによって吸収性物品としての吸収性能の向上が

図られてきた。

【0003】

しかしながら、新しい素材を導入し、各部材個々の性能が優れた吸収性物品であっても、実際の使用時には依然として横漏れを生じることが多い。例えば、生理用ナプキンの場合には、その端部から血液が何等かの原因で横漏れしてショーツに血液が達するなど生理用ナプキンとして不都合な現象を生じ、吸収性物品本来の性能を十分に発揮していると言い難いものであった。このように各構成部材本来の性能と無関係に発生する生理用ナプキンにおける漏れの主たる原因としては、次の3つが考えられる。

(1) 使用者が生理用ナプキンをショーツに装着する際、装着位置がショーツのクロッチ部において左右のいずれかに偏倚し、クロッチ部に初めから生理用ナプキンによって被覆されていない部分が存在すること

(2) 使用者が略正規の位置、つまりショーツのクロッチ部に対して左右に偏倚させることなく略中央に生理用ナプキンを固定したとしても、使用者の運動等によって生理用ナプキンの長手方向の両端部が中央部に折り重なって丸まった状態に変形するヨレを生じ、装着直後は被覆されていたクロッチ部の端部がヨレによって露出すること

(3) 使用者が激しい運動を行った場合に、生理用ナプキンが一般的に具備する粘着剤等の固定手段のみでは生理用ナプキンをショーツのクロッチ部に十分に固定することができず、生理用ナプキンが所定の位置からズレてショーツのクロッチ部が露出すること

【0004】

これら(1)～(3)に起因する漏れは、使用者が着用するショーツによっても大きな影響を受ける。例えば、サイズ、特に、クロッチ部の幅がナプキンの幅に比べて広い場合、あるいは身体とのフィット性が悪くルーズな状態になった場合には、漏れが比較的発生し易くなる。

そこで、これらの問題を解決するために、吸収性物品の長手方向両側の中央部から幅方向外方へ一對の可撓性のフラップ(固定片)をそれぞれ延出させた吸収性物品が多数提案されている(特開昭60-75058号公報、特開平1-11

1002号公報、特開平2-13455号公報等)。これらの吸収性物品は、使用時にそれぞれのフラップでショーツのクロッチ部を挟んで固定することによりショーツにおける吸収性物品を安定化させてその防漏性を改善したものである。

例えば、特開昭60-75058号公報に記載の衛生ナプキンは、吸収性物品の縦方向両側の中央位置において、吸収体の側部から液透過性の表面材と液不透過性の防漏材から成る可撓性のフラップを延出させ、使用時にショーツの側端部からフラップを引出し、フラップの裏面に設けられた固定接合手段によりショーツ外側に設置固定することにより衛生用ナプキンを安定化させてその防漏性を改善したものである。

【0005】

【考案が解決しようとする課題】

しかし、これらのフラップ付衛生用ナプキンは、通常フラップが両側部の長手方向中央に位置しており、フラップ及びフラップ裏面の固定接合手段には剥離紙が設けられているため、以下の問題が生じている。

①衛生用ナプキンをショーツのクロッチ部に装着する際、剥離紙を剥がす操作が面倒で、且つそのような手間に注意を捕られ、最適位置に装着することが出来ず、時として使用開始時からナプキンが不規則な形にヨレた状態で装着されて漏れを引き起こす。

②従来のフラップは股間中央に位置し、ショーツのクロッチ部の最も幅狭の部分に装着されることになるため、吸収性物品の吸収体は装着者の前部分に偏り、後ろ漏れ防止効果等が低下する。

③固定接合手段及び剥離紙は、ナプキンの裏面の略全域に設けられ、期待される効果の割にはコストがかかる。

④包装個装形態としては、フラップの位置関係等から従来三つ折にしてあるためそのコンパクト性に欠ける。

【0006】

従って、本考案の目的は、ショーツ等の下着の形状、身体へのフィット性の如何に拘わらず、下着に対する装着が容易で装着ミスがなく、運動等を行っても吸収性物品が殆どヨレることなく、使用開始時の着用状態を終始安定した状態に保

持することができ、漏れ（特に、後ろ漏れ、横漏れ）を有効に防止することができるのと共に剥離紙が不要で取扱い容易な吸収性物品を提供することにある。

本考案の第二の目的は、包装形態、即ち個装形態がコンパクトで持ち運びに便利な吸収性物品を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】

本考案者らは、特にショーツ等の下着に対する装着が容易で装着ミスがなく、しかも横漏れ、後ろ漏れを有効に防止することができる吸収性物品について種々検討した結果、下着に対する特定の固定手段を吸収性物品の適宜の位置に設けることによって上記目的を達成し得ることを知見した。

【0008】

即ち、本考案は、上記知見に基づいてなされたもので、下記の吸収性物品を提供するものである。

液透過性の表面材、液不透過性の防漏材、及びこれら両部材間に介在する液保持性の吸収体を有し、実質的に縦長に形成され、股間に装着する吸収性物品において、

上記吸収性物品における股間前方に位置する左右両側縁部に、その幅方向外方にそれぞれ延びる一对の固定片を設け、

上記一对の固定片の各裏面に第一粘着部を設け、また上記吸収性物品における股間後方に位置する防漏材面の中央部に第二粘着部を設け、

上記一对の固定片を、上記左右両側縁部において上記防漏材側にそれぞれ折り曲げた場合、該固定片が上記第一粘着部と重ね合わされる上記防漏材面に、上記第一粘着部に対して接離自在な剥離部を設け、

上記吸収性物品を長手方向に四つ折した場合、上記第二粘着部と重ね合わされる上記防漏材面に、第二粘着部に対して接離自在な剥離部を設けたことを特徴とする吸収性物品。

【0009】

【作用】

本考案の吸収性物品によれば、四つ折り状態から表面材が広がるように展開し

、固定片を吸収性物品の幅方向へ上げた状態にして下着のクロッチ部の内面に当て、剥離紙などに邪魔されることなく第二粘着部を下着のクロッチ部後方に固定し、次に、上げてあった固定片を元の状態に折り曲げてその第一粘着部をクロッチ部の外面に粘着させて固定片でクロッチ部前方の両側縁部を包み込み、吸収性物品を下着に固定する。従って、この状態で下着を着用すれば、液透過性が体液の排出部に位置し、着用後に使用者が運動等を行っても固定片が捲れることなく、常に固定片がクロッチ部に第一粘着部によって粘着した状態でクロッチ部を包み込み、吸収体が前方に偏ったりすることなく、また第二粘着部によって後方のズレもなく、吸収性物品を初期の状態で終始安定的に保持することができる。また、携帯時においては、四つ折りにされコンパクトな形態に維持されている。

【0010】

【実施例】

以下、図1～図8に示す実施例に基づいて本考案を説明する。尚、各図中、図1～図4は本考案の吸収性物品の第1の実施例である生理用ナプキンを示す図であり、図5～図8は本考案の吸収性物品の第2の実施例である生理用ナプキンを示す図である。

【0011】

本考案に係る吸収性物品は、図1～図8に示す如く、液透過性の表面材（表面シート）2、液不透透性の防漏材（防漏シート）3、及びこれら両部材間に介在する液保持性の吸収体4を有し、実質的に縦長に形成され、股間に装着されるもので、この点は従来公知の吸収性物品の構成と同様である。

しかし、本考案の吸収性物品は、上記吸収性物品1における股間前方に位置する左右両側縁部1aに、その幅方向の各外方に延びる一対の固定片5、5を設け、上記一対の固定片5、5の各裏面に第一粘着部6、6を設け、また該吸収性物品1における股間後方に位置する防漏材3面の中央部に第二粘着部7を設け、上記一対の固定片5、5を防漏材3側に折り曲げて上記第一粘着部5、5と重ね合わされる上記防漏材3面に、上記第一粘着部6、6に対して接離自在な剥離部8を設けてある。また、上記吸収性物品1を長手方向に四つ折した場合、上記第二粘着部7と重ね合わされる上記防漏材3面に、第二粘着部7に対して接離自在

な剥離部8を設けてあり、本実施例では2つの上記剥離部8、8は一体化している。

【0012】

本考案に係る第1の実施例の生理用ナプキン1を更に説明すると、図1～図4に示す如く、生理用ナプキン1は、上記一对の固定片5、5を、上記左右両側縁部1aにおいて上記防漏材3側に折り曲げて上記第一粘着部6に接離自在に重ね合わせた生理用ナプキン1を、その長手方向の中央部で上記表面材2側に二層に折り曲げた後に、二層に折り曲げられた生理用ナプキン1を更に折り曲げて上記第二粘着部7と上記剥離部8とを接離自在に重ね合わせるにより、全体が四層形態に折り曲げられる。第1実施例の生理用ナプキンは、このように、コンパクトに包装可能な形態とすることができる。

具体的に、上記表面シート2及び防漏シート3の一部は生理用ナプキン1の長手方向前方の左右両側縁部1aにおいて幅方向外方へ略台形状を呈するように延在され、該延在部は、一对のウィング状固定片5、5として形成され生理用ナプキン1本体と一体化している。また、該一对の固定片5、5は、それぞれ生理用ナプキン1の長手方向の左右両側縁部1aにおいて前方に偏倚して位置している。

各固定片5、5の防漏シート3の表面（裏面）には第一粘着部6、6がそれぞれ設けられ、生理用ナプキン1の後部の防漏シート3面には第二粘着部7が設けられ、更に、生理用ナプキン1の前部及び中央部の防漏シート3面には剥離部8が設けられている。剥離部8は、図2に示す如く、一对の固定片5、5が防漏シート3側に折り曲げ、或いは畳まれたときに、固定片5の第一粘着部6と接合し、且つ図3及び図4に示す如く、生理用ナプキン1の四つ折り時に、上記防漏シート3面の第二粘着部7と接合するように形成されている。

この剥離部8は、第一粘着部6、及び第二粘着部7と接離可能な面に仕上げてあればよく、剥離紙と同様な作用効果を発揮するものであれば特に制限はない。

【0013】

次に、第1の実施例の生理用ナプキン1の使用態様について説明する。

先ず包装するまでを図1から図4に従って説明すると、一对の固定片5、5は

、防漏シート3側に折り曲げられ、第一粘着部6が剥離部8に仮接着される(図2)。次に、生理用ナブキン1がその中央で表面シート2を内側にして幅方向に折り曲げられる(図3)。そして、第二粘着部7と剥離部8とが仮接着されるように四つ折りにされ、個包装される。このような四つ折りにおいては、固定片5が生理用ナブキン1の前方に形成されるため折り曲げの際に邪魔にならない。また、防漏シート3面の第二粘着部7及び剥離部8が好適な位置に設けられるため、粘着部6、7には剥離紙が不要である。

【0014】

生理用ナブキン1を使用するに当たっては、第二粘着部7を剥がしながら図4の四つ折り状態から表面シートが広がるように展開し(図2)、一对の固定片5、5を剥がす。剥離紙を取る手間が省かれた状態で、生理用ナブキン1を下着のクロッチ部の内面に当て、第二粘着部7を下着のクロッチ部後方に固定し、次に、広げてあった固定片5、5を元の状態に折り曲げてその第一粘着部5、5をクロッチ部の外面に粘着させる。これにより、固定片5、5でクロッチ部前方の両側縁部が包み込まれ、吸収性物品は下着に確実に固定される。

従って、装着動作が簡便で、装着ミスが少なくなり、下着の着用後は、生理用ナブキン1の液透過性部が体液の排出部に正確に位置し、使用者が運動等を行っても固定片5、5が捲れることなく、吸収体4等が前方に偏たったりすることがない。また、第二粘着部7によって後方のズレもなく、生理用ナブキン1は初期の状態で終始安定的に保持される。尚、携帯時においては、四つ折りにされコンパクトな形態に維持される。

また、第1実施例によれば、第一、第二粘着部6、7が互いに接離自在になって、各粘着部6、7間に剥離紙を介在させる必要がなく、従って、高価な剥離紙を節約して製造コストを低減することができ、経済的な生理用ナブキン1を得ることができる。

【0015】

次に本考案に係る第2の実施例を図5～図8に基づいて説明する。第2の実施例に係る生理用ナブキン10は、図1～図4に示す第1の実施例とほぼ同様に構成されており、図1～図4に示す第1の実施例における部材と同様な部材につい

ては図5～図8において同一符号を付してその詳しい説明を省略するが、第1の実施例と相違するところは、以下の点である。

第2実施例の生理用ナブキンは、図5に示す如く、上記第二粘着部7と重ね合される上記防漏材3面が、上記第一粘着部6と重ね合される上記防漏材3面よりも前方に位置しており、該防漏材3面に剥離部8を設けてある。

従って、第2の実施例の生理用ナブキンは、図5～図8に示す如く、上記一对の固定片5を、上記左右両側縁部10aにおいて上記防漏材3側に折り曲げて上記第一粘着部6に接離自在に重ね合わせた上記生理用ナブキン1を、その長手方向の両端部11、11が、該長手方向の中央部で互いに突き合うように表面材2側に二層に折り曲げた後に、二層に折り曲げられた生理用ナブキンを更に上記両端部11、11の突き合せ部で折り曲げて上記第二粘着部7と上記剥離部8とを接離自在に重ね合わせることで、全体が四層形態に折り曲げられる。

また、第2実施例の生理用ナブキン1は、図5に示す如く、剥離部8は防漏シート3における前方部のみ形成されている。

【0016】

このような構成においても、一对の固定片5、5は、防漏シート3側に折り曲げられ、第一粘着部6が剥離部8に仮接着され、生理用ナブキン10は、その両端部11、11が突き合うように、しかも表面シート2を内側にして幅方向に折り曲げられる（図7）。そして、第二粘着部7と防漏シート3の前方の剥離部8とが仮接着されるように四つ折りにされ、個包装される。従って、第1の実施例と同様に、四つ折りにおいては、固定片5が折り曲げる際の邪魔にならず、また、粘着部6、7には剥離紙が不要である。

更に、使用に際しても、第1の実施例と同様に上記効果を奏する。

【0017】

【考案の効果】

本考案の吸収性物品は、ショーツ等の下着の形状、身体へのフィット性の如何に拘わらず、下着に対する装着が容易で装着ミスがなく、運動等を行っても吸収性物品が殆どヨレることなく、使用開始時の着用状態を終始安定した状態に保持することができ、漏れ（特に、後ろ漏れ、横漏れ）を有効に防止することができ

ると共に、剥離紙が不要で取扱い容易なものである。また、吸収性物品は包装形態、即ち個装形態がコンパクトで持ち運びに便利となっている。